

会報 わかくさの風

No.16

社会福祉法人戸田わかくさ会

〒335-0021 埼玉県戸田市新曽1522-1 わかくさ内

Tel 048-432-8198 Fax 048-432-8298 <http://www.wakakusa-kai.com/>

あらたに入学を迎えた子どもたち、学生、そして新社会人がにこやかな表情の中にもやや緊張した趣で街中を歩いています。このような街の姿に「春はいいなあ」と感じながら、元気をもらっています。法人もあらためて頑張らなければならぬと気持ちを引き締めております。

30年度の障害福祉は、報酬の引き上げ、重度化に対応したグループホームの整備などプラスの面もあります。が、全体としては就労を軸とした政

⇒平成30年度合同入所式。新たに2名の仲間を迎えました。



今年度も利用者の皆さんとの関わりを通じたエピソードをお伝えしたいと思っております。

会議があり自転車で出かけたが、降りるときにうっかりし、転んでしまった。ズボンに穴が開いてしまうほど左足の膝あたりを強打した。会議が終了事務所でズボンをまくり上げて見ると、膝に出血が見られ、10

やさしさで笑顔(2) 人は関係の中で「働き」をする

平成30年4月
社会福祉法人戸田わかくさ会
理事長 横山 ユタカ
統括施設長 竹嶋 紘

策展開となっております。

また、「我が事丸ごと」による地域共生社会づくりが急ピッチに進もうとしています。注視していきたいと考えております。障害ゆえに抱え込まざるを得ない「生活のしづらさ」を互助を中心に解決するには、大きな問題があります。法人は「生きる権利性」を大切に、理念であるノーマライゼーションの実現と豊かな地域社会の構築に向けて頑張つてまいりますので、皆様方のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、1月の会報を発行する予定でしたが、諸般の事情で発行することができませんでした。深くお詫び申し上げます。

2時間程経過しているが、出血は止まらない。事務員が処置をしてくれているところに、Mさんが入ってきた。彼は毎日、数回事務所を訪ねてくる。Mさんが気に入っているY女性事務員がいるからである。たまにその時間帯に、私がいたのである。しかも2人の事務員が足の処置を手伝ってくれていた。どういう反応するか？私にどけという仕事をやるのかな？と思いつつながら彼の行動を見ていた。そうすると彼は、女性職員がテープを切るのを見て、彼もテープを引っ張り、適当な長さの手でちぎり私に渡してくれた。

彼は言葉を殆ど発しない。彼は、「どうしたのかな？血も出ているし、傷を手当しなればだめだよ」という気持ちでテープを渡してくれたのでは？と思いつつ、「ありがとう」と返した。彼は、「にこっ！」と笑顔を返し、事務所を出て行った。

彼が無言で渡すテープ、そして私からの「ありがとう」というわずかなメッセージの中に、あの笑顔から深いコミュニケーションが生まれたと思っている。

コミュニケーションには言語によるコミュニケーションより、ノンバーバルコミュニケーション(非言語的)が70%から80%が占めているという。目は口ほどに物を言うという。言葉で語ることがない彼はノンバーバルコミュニケーションの達人である。この達人から学ぶことは多い。

統括施設長 竹嶋 紘

平成29年度 障害児・者実践交流会

◆4回目の開催

平成29年12月10日
「幼児期から、親子後までを見据えて」をテーマに「障害児・者実践交流会」を戸

田市商工会館で開催しました。

“支援の質の向上”と“戸田市内の事業所間の交流”を目的に、戸田市内の事業所が共同で実行委員会を立ち上げ、日頃の実践を学ぶ会合場として今回で4回目となりました。研修には各事業所の職員だけでなく、家族や市議会議員の方を始めとした様々な方にご参加いただきました。



◆様々な発表

幼児期からは脳性麻痺児の発信意欲を育む支援について、初めての事に不安感を抱く児童でしたが、色々な感情が表出できるようになり、心から笑うようになると報告がありました。様子をビデオで撮影して、児童の動きや様子、自身の関わり方を確認してアセスメントを取る姿勢は同じ支援者として見習わなければならないと感じました。



学齢期からは、難聴児童への個別療育支援について3か月間の支援の取り組みの報告がありました。小学校入学にあたり、45分間座つていられるようになることを中心

とした支援を行った結果、最近では一時的な離席はあるものの、45分間座つて課題に取り組めるようになったことや、一つの物事によく集中できているという様子を報告していただきました。

成人期としてわかくさの成田さん・渡邊さんから、利用者の働くことへの原動力や意欲を引き出す為の支援について報告がありました。支援学校を卒業し、わかくさでの日中活動に不安を感じている利用者に対する支援や買い物体験を通して利用者一人ひとりの働く意欲に繋がってきている事を発表していただきました。

◆それぞれの実践から学ぶ

参加者からは、「利用者の本当の思いを引き出せる支援をしたい」「様々な角度からチームとして取り組むことの大切さを感じた」といった意見が聞かれ、今後の支援に活かしたいという考えを持たれた方が多くいました。

普段関わりの少ない幼児期や学齢期にどのような支援を行っているかを知る事は私達の支援の向上にも繋がると考えます。その為にもこの実践交流会を今後も続けて

いきたいと思っています。アンケートにも「他のケースも聞いてみたい」「このような交流の場が必要」といった感想がありました。各支援者のもとと学びたいという意欲は戸田市全体の福祉の向上にも繋がっていくのではないのでしょうか。



戸田市の障害のある方の支援の向上を目指す上で各事業所間の相互理解と連携を深めさらなるネットワークの拡大を行いたいと思っています。障害があっても豊かに暮らせる地域づくりを目指して、実行委員会にご協力していただける方は是非お声掛け下さい。今回ご参加いただいた皆様、たくさんのご意見・ご感想をいただきました。ご協力ありがとうございました。

(研修委員 蛭間)

支援の向上を目指して 行動障害研修の実施



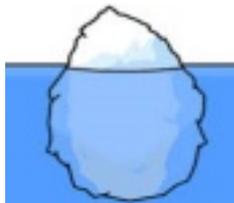
◆ 3回の連続研修

業務標準化・事務管理委員会から、「業務の標準化」「支援力の向上」をめざし、『行動障害研修』の依頼を受け、わかくさ・ゆうゆう・かがやきの事業所職員対象に研修を実施しました。年々、国や県は行動障害への理解不足や支援力の低さから、虐待が発生していると考えており、重要事項として取り組みが強化されてきています。研修は3日間の日程で実施しま

した。1日目は基礎知識を学びました。その

中で、自閉症を含めた障害特性の事や、問題行動のとりえ方、また障害特性を理解していないがために起こってしまう可能性がある虐待についてなどを学びました。実際にグリーングラスで行っている構造化の事例や映像を使用し、進めました。

2日目には、『冰山モデル』を使用し、グループワークを実施しました。



『冰山モデル』とは、目に見えてくる課題を氷山の水面上の一角に捉え、その水面下にある要因に注目して支援策を検討する方法です。各事業所で行動上に課題を抱える利用者事例に挙げ、目に見えてくる行動だけに囚われず、その背景にある利用者の気持ちや行動の要因を分析し、対応策を検討し発表を行いました。事業所、それぞれの視点で対応策を検討しましたが、行動障害へのとらえ方の差が

明らかになる結果となりました。

3日目は、行動障害研修のまとめを含め、架空事例を使用して、本人の障害特性を長所に変換して、強みを活かした支援策の作成に取り組みしました。普段からマイナスで見えてしまいがちな障害特性を、見方・視点を変えることで、長所に変換することが、重要であることを理解してもらいました。また、私たち支援者が問題や課題と捉えている利用者の行動は、私たち支援者の間違った対応方法が作り出しているということも学んでいたことができました。

◆ 支援の考え方

一言に『問題行動』と言いますが、『どうして起きてしまうのか?』を意識しなければ、解決は出来ませんし、支援の質は向上しないと

思います。当法人では、行動障害に認定されている方はいません。しかし、重度であろうと、軽度であろうと、支援の基礎となる考え方や手法は共通の部分があります。また、新人職員を迎えるたびに、その手法や考え方を伝えていける組織でなければならぬと思います。



◆ 根拠ある支援

研修をおして、各事業所では、障害特性の理解や環境・状況について客観的に捉え、根拠を持った支援が必要であることが学ばれた。その手法についても身につける為の良い機会となりました。今までの支援を見直し、支援者自身が障害になっていたのでないかという反省と、新たに発見できた本人の強みの強化方法や活かすことに視点を置いた支援につなげていけるように、今回の研修を活かしていきたいと思えます。また、業務標準化や支援力の向上はサービスの質を確保する上で重要なことなので、事業所・法人としても真摯に取り組みたいと思えます。

(業務標準化・事務管理委員会 宮國)



ゆうゆう だらやき 〈出張販売!〉

◆たくさんの場所での販売

平成29年度も戸田市市内や市外の多くの場所ですだら焼きの販売ができました。市内では、

- ・ 5月 こどもの国販売
- ・ 8月 こどもの国 (サマーフェスタ) 販売
- ・ 10月 商工祭
- ・ 11月 コンパル祭り・健康福祉まつり・戸田収穫祭。
- ・ 12月 市立図書館販売 (カフェこころぽ合同販売)
- ・ 月に1回 ビーンズ戸田公園駅での販売



市外では、

- ・ 6月 埼玉県SELPMまつり
- ・ 7月 蕨福祉センターまつり
- ・ 9月 埼玉県民生委員大会売 (福祉の店パレットと合同販売)

- ・ 12月 コープみらい浦和・大宮駅コンコース販売 (不定期開催)

と、たくさんの場所を提供して頂き販売をすることができたことにとっても感謝しております。

◆新たな販売先

そして、初めて販売に参加させて頂いた場所もありました。8月・10月・12月に開催した『憩いの家販売』、11月に川口市の施設からお話を頂き販売させて頂いた、



口市の利用者さんや地域の方々との交流ができた喜びを感じることができました。

◆めざせ!100回

昨年度だけでも92回の出張販売に参加することができました。

(法人内販売・中学校販売も含む)
平成30年度は、地域の方々ともっと多く交流をして、ゆうゆうのどら焼きをもっと知って頂けるように、市内はもちろん、市外への出張販売をして行こうと思っています。

そして、年100回を目標に、利用者さんと共に製造・新商品の開発に力を入れて頑張ります!

※戸田わかくさ会のフェイスブックに季節で変わるどら焼きを、販売開始と共に更新していきますので、是非ご覧ください!

(太田)

『ハートフルバザールINニミエル』。同月、戸田市社協開催の『戸田市社協ふれあい祭り』など、新しい環境で販売ができたと共に、戸田市内だけでなく、さいたま市・川



戸田わかくさ会ホームページ上の様子

各事業所の取り組み

わかくさ

わかくさB班企画
「僕たちだっって楽しみたい！」

B班企画の取り組み

いきなりですが、わかくさはどれくらい仕事をして、どれくらい仕事以外の活動をしていると思いますか？今回はわかくさの就労継続支援B型の利用者が中心となつて実施している企画（B班企画）についてお伝えします。

わかくさは、障害の重い軽い関わらず「働くこと」を大切にしています。そんな中、生活介護の利用者中心のA班は、週2回、午後1日中活動として機能維持・向上活動や創作活動を実施しています。しかし、B班は忘年会、日帰り旅行と事業所での行事はありますが、その他に今までレク活動はありませんでした。

きっかけは利用者の声

B班企画を始めたきっかけは利

用者のみなさんの声でした。「もう少し楽しめることがしたい」という声が多々ありました。そこで、利用者が中心となり、自治会で話し合いを始めました。このような流れで昨年より、B班企画がスタートしています。

昨年度は5月に『映画鑑賞』、12月に『ペットボトルリング』を行いました。『ペットボトルリング』は、B班企画初のスポーツ企画。団体戦で行い、勝負事とあり大変盛り上がりました。当然ながら、順位もあり、表彰を終えると2位以下に甘んじた利用者からは「こんどは優勝したい!」、 「次の勝負ではメンバーをこうしたい」等々、しばらくの間、楽し



3つのレーンを用意。
チーム対抗戦で勝負!!

い余韻に浸れました。

わかくさB班のメンバーは本当に様々です。言語理解のできる人と、そこが難しい人、みんなが楽しめるよう、利用者が利用者のことを思い、企画検討を行っています。これからも、楽しみを持ちながら仕事と向き合っていきたいと考えています。

(永井)

かがやき

かがやきの新しい作業

新しい作業への取り組み

昨年度のががやきは、いくつかの新規作業に取り組みました。新しい取り組みのひとつとしてさいたま市にある埼玉スタジアム2002の除草作業を昨年7月から始めました。

埼玉県セルプを通じて共同受注という形で行っており、複数の作業所と一緒に作業を行っております。かがやきは毎週火曜日の午前中に作業を行っています。

利用者はかがやき代表

全国でも有数の競技場というこ



ともあり、作業の時にイベントの業者の出入りもあるなどかがやきの中とは全く違った雰囲気と緊張感の中の作業になります。夏は日陰の少ない中で、冬は寒さの中での作業ですが「かがやきの代表として行っているから頑張る」と意欲的に取り組んでいます。

頑張るだけではなく、始める際に除草作業が不安との話があった方がおりかがやきの花壇で道具の使い方を練習する・中腰の姿勢だと腰の疲れが出るとのことだったので簡易

イスを準備するなど、より取り組みやすいよ



うな働きかけも行いました。
 埼玉スタジアム作業以外にも平成29年は新しい作業の取り組みが多かった1年でした。平成30年度も就職に向けた取り組みも作業もより良いものとなるよう頑張っています。

(寺内)

グリーングラス

グループホームの多様性

それぞれの生活

現在、法人では3ヶ所のグループホームと2ヶ所のサテライト型住居に、23名の入居者が暮らしています。それぞれのグループホームは、名前の通り、5名から10名の入居者が集団で共同生活をしています。その為、入居者同士が仲良く生活できるように、職員は支援を行います。しかし、同じ釜の飯を食べた中でも、所詮は赤の他人です。
 グループホーム内で、気の合う人も居れば、合わない人も居て当然だと思いませんか。集団でワイワイと生活することが好きな人も

居ると思います。そのような方は、今のグループホームには合っていないと思います。でも、あまり他人と関わりたくない方もいるはずですよ。

住む場所にも違いが出ると思いますが、コンビニや交通の便の良い所が良い人も居れば、静かで自然が多い所が良い人もいます。

私たちが住む所を決める時は、このことは当たり前のように条件の中に入れ、住む場所を決定しています。では障害のある人たちはどうでしょうか？前述した通り、法人では3ヶ所しかホームを運営していません。その内1ヶ所は10



名の大所帯です。また、違う所に移りたくても、移るグループホームがありません。

住みたい所に住む

グループホームの数の不足は、以前から声があがっています。法人としても、増やしていく方針を出しています。しかし、できてから使い勝手の悪いグループホームでは、そこで生活していく入居者は、また我慢をして生活をして行かなければなりません。

『親亡き後はグループホームに』と考えているご家族は多いと思います。そこで、今回は新たな提案をさせていただきます。『親亡き後は、本人が選んだグループホームに』してみませんか？その為には、様々な問題があるのも事実です。人の問題、建物の問題、近隣住民との問題、お金の問題・・・。

私たちは今後も利用者やご家族の皆さんと一緒に、一つひとつ問題を考えていきたいと思えます。そして、『住みたい所に住む』という当り前なことを、実現できるように目指していきます。

(石川)



わかば・ひかり

ひかりの役割

ひかりは何を

してくれるところ？

指定特定相談支援事業所ひかりでは、障害福祉サービスを利用するために必要となる「サービス等

利用計画書」を作成しています。計画書の作成だけでなく様々な障害福祉サービスの紹介や、利用に向けての相談・調整をおこないます。ひかりの業務をOさんの事例でご紹介します。



戸田市内でお兄さんと二人暮らしのOさんは、数年前の交通事故が原因で障害が残り、生活上ご不便なことが増えて来ました。歩くことが難しくなったOさんの生活を支えるために障害福祉課から紹介され、ひかりが関わることになりました。ご自宅を訪問すると、お兄さんにも持病があつて身体が不自由なため、Oさんの介護が難しい状況でした。特に入浴が大変とのことで、ヘルパー事業所を紹介することになりました。



Oさんやお兄さんのご意向を聴きながら、入浴介助ができる男性ヘルパーのいる事業所を探し、入浴介助サービスが開始されることになりました。ところが、お兄さんから「利用を見合わせたい」との連絡が入りました。兄弟二人の

生活が長く、暮らしのリズムが変わることに不安があったのでしよう。ヘルパーが自宅に来て支援するサービスは、今のOさん兄弟の生活スタイルには馴染まないことが分かりました。再度、生活状況やご希望を確認し、短期入所と生活介護の通所型サービスの利用を進めていくことになりました。市内の施設を紹介し、見学にも同行しています。またヘルパーには、歩行訓練を兼ねた散歩の支援をお願いしました。週1回、外出してご自分で買い物ができるようになっていきます。

今年度もひかりの役割として、いろいろな福祉サービスを安心して利用できるよう、また、その時々のご本人やご家族の生活スタイルに合ったサービスの利用が可能になるよう、支援していきたいと思えます。

(ひかり 木澤)

就労支援C・みなみ

顔の見える

ネットワーク

地域のネットワーク

みなみでは、年に4回実施する県南地域就労支援センター情報交

換会の事務局を行っています。

主な参加機関はみなみが担当している南部保健福祉圏域(川口市、蕨市、戸田市)の各市の障害者就労支援センターと隣接するさいたま市障害者総合支援センターを含め5センターを中心に情報交換会を行っています。

会の目的としては、各センターの相談状況やセンター独自の取り組み、企業情報、制度・施策動向の情報共有とケースの相談などを行い県南地域の就労支援体制の共有化を図っています。



グループスーパービジョンの機能

参加する支援者も10年以上の就労支援経験がある職員から、今年度からはじめて就労支援を担当する職員もいます。また、市の就労支援センターは事業予算の規模も様々で職員が2名体制のセンターもあります。そうした各センター状況の中で、定期的な連絡会をもち、顔合わせて話合う機会はグループスーパービジョンとしての役割を果たしていると感じていきます。私自身も就労支援に関わりはじめて当初は右も左もわからない中、

近隣の就労支援センターの方に電話をし、色々と教えて頂きながら今日に至っています。また、この会がきっかけとなり、企業との連絡会の開催や企業情報の共有から就労に結び着くケース等もありました。

埼玉県では就労支援人材の育成が課題となつていきます。今年度も広域的に支援が可能なナカポツの役割として圏域の就労支援体制をより充実できるように各機関と連携し、取り組んで行きたいと思えます。

(みなみ 酒井)

平成30年度

主要人事

平成30年度の法人各事業所の主要人事は次のとおりです。

- ◆ 法人本部・事務
 - 統括施設長 竹嶋 紘
 - 事務長 吉川 洋一
 - 事務長補佐 小野寺陽子
- ◆ わかくさ
 - 所長 鈴木 利夫
 - サービス管理責任者 宮國 真衣
- ◆ ゆうゆう
 - 所長兼サービス管理責任者 浜田 知奈(新)

- ◆ かがやき
 - 所長 南雲 雅雄(新)
 - サービス管理責任者 石野 恵子
- ◆ グリーングラス
 - 管理者 竹嶋 紘(新)
 - 副所長兼サービス管理責任者 石川 丈

- ◆ 戸田市障害者就労支援センター
 - 所長 南雲 雅雄(新)
 - 主任 山本 弘信
- ◆ みなみ
 - 所長 酒井 正博
 - 主任 稲葉かおり(新)
- ◆ わかば
 - センター長 猪野真由美(新)
- ◆ ひかり
 - 所長 高野 永(新)

●平成30年度新規採用職員は次のとおりです。

- (平成30年4月1日発令)
- かがやき 南雲 雅雄所長
 - わかくさ 行川 慶彦
 - わかくさ 橋本 海香
 - わかば 吉長 三紀

平成30年度定期人事異動、また、新規採用職員4名を迎え、新たな顔ぶれでみんなの願い、1人ひとりの願いを実現する事業を推進していきます。



皆様の応援をお願いいたします。

表現活動

『心の中』を通過した 反応だけが利用者へ届く

表現活動は、利用者の感情表出のための環境を整え、その場を提供するのが職員の仕事である。そこでは、支援者である職員が「利用者とともに」感じる事が重要である。利用者の言語的な感情表出に対して「目を向け」「耳を傾け」「共感的態度を取る」のは大前提として、言語的・非言語的を問わないあらゆる感情表出にどう反応するか、という問題である。

利用者の言語的な感情表出に対して「嬉しいですね」「辛かったですよね」と言葉で応じるのは

表面的な言葉の奥に別の感情（防衛機制）に起因する感情や両面感情）があるかもしれない。また、言語によるコミュニケーションが難しい利用者にも、あらゆる感情がある。

表現活動の場は、感情表出の場である。職員が言語的に反応することはもちろん大切なのだが、それ以上に非言語的な反応が重要なのである。非言語的な反応が疎かになってしまった、ただ言語だけの反応では、職員のうちわだけの「共感的態度」は利用者に見抜かれるだろう。

バイステイックは「反応は、『心の中』を通過したときにだけ意味を持つものである」と言っている。つまり、職員がいくら上っ面だけで「受容」だの「共感」だのしたところで、たいして意味は無いということである。表現活動を支援している自分は、常に「心の中を通した反応」を利用者に行っているだろうか。本稿を書きながら自問自答してみると、「反省しなくてはいけない面がある」と感じた。

(わかくさ 清水)



神保(前)戸田市長へ 感謝を伝える

3月16日に戸田市長への表敬訪問を行いました。

3月末で退任された神保(前)戸田市長の今まで法人に対する多大なご協力を賜ってきたことへの謝意を伝えるため、横山理事長をはじめ、各事業所の利用者代表者を含め13名で伺いました。法人化以前から応援して下さいました話や市内のお祭りなどで利用者の顔を覚えていてくださったことなど30分ほど話をさせて頂きました。



利用者代表からは、「戸田市長をいい街にしたいと考えて、ありがとうございます」と感謝を伝えました。(酒井)

【1月号の発行中止】
諸般の事情により発行ができませんでした。深くお詫びいたします。

(編集後記)

4月新年度となり、わかくさ会も新しい体制がスタートしました。4月14日には法人全体会が行われ、本年度の大切にしたいキーワードとして「主体性」「独自性」「創造性」が挙げられていました。「わかくさの風」もまた、新たな風を皆さまにお届けできるように取り組んでいきたいと思っております。(酒井)

(法人の運営する事業所)

わかくさ、福祉作業所ゆうゆう、福祉作業所かがやき、グリーングラス、障害者生活支援センターわかば、障害者就労支援センター、障害者就業・生活支援センターみなみ、指定特定相談支援事業所ひかり



(ホームページはこちら)
<http://www.wakakusa-kai.com/>

facebookもやっています

【発行】

社会福祉法人戸田わかくさ会
〒335-0021 戸田市新曽1522-1
TEL 048-432-8198 FAX 048-432-8298